

高校にも「通級」導入へ

3月19日まで意見募集（文部科学省）

文部科学省はこのほど、障害のある子供が通常の学級に在籍しながら障害に応じた特別指導を受ける「通級指導」について、高校にも導入する方針を固めた。特別支援教育に関する有識者会議がまとめた報告書案について、3月1日から意見募集を始めた。3月19日まで意見を受け付ける。

中学校で通級指導を受ける生徒は2014年度は

8,386人で、この制度の始まった1993年度の28倍。その多くは高校に進学するが、その後、孤立して不登校や中退となる例もみられるという。

意見募集の要領は、電子政府の総合窓口（<http://www.e-gov.go.jp/>）を参照。

（福祉新聞・第2754号 2016年3月14日）

お知らせ

ボイタのコンセプトによる乳幼児の運動発達障害講習会

発達と発達診断について、講義だけでなく乳児の姿勢の体験（体感）、症例での診断（予定）を行います。セラピストによるボイタ治療の実際もみていただきます。新生児のフォローアップや健診にあたっている医師、療育に携わってられる医師、発達に興味をもっている医師（経験はなくても大丈夫です）のご参加をお待ちしています。

日 程：2016年7月9日（土）・10日（日）

会 場：聖ヨゼフ医療福祉センター

京都府京都市北区北野東紅梅町6

プログラム：正常運動発達（背臥位）、正常運動発達（腹臥位）、原始反射について、姿勢反応について、

診断の実際、診断・治療実習、乳幼児の運動発達障害について

*内容はいずれも講義と実技指導を含み実践的ですので体操着をご用意ください。

参加申し込み締め切り：2016年06月17日

定員：15人

問い合わせ先：特定非営利活動法人日本ボイタ協会

〒543-0028 大阪府大阪市天王寺区小橋町5-9-101

Tel：06-6767-1178, Fax：06-6767-1178

E-mail：office@vojta.jp 学会 URL：http://vojta.jp

お知らせ

第2回東京都総合高次脳機能障害研究会

高次脳機能障害のリハビリテーションは、病院にとどまらず、在宅生活が始まった地域においても展開していくことが求められています。そのためには医療、行政、福祉に携わる全専門職の方々のチームワークが大切です。本研究会は「高次脳機能障害の基礎と応用—医療から地域へ」をテーマとして、基本的な内容から実践的アプローチまでを学び議論する機会です。どうぞご参加ください。

日 時：2016年8月6日（土）、7日（日）

会 場：東京慈恵会医科大学本館中央講堂
東京都港区西新橋3-25-8

主 催：東京都総合高次脳機能障害研究会

共 催：東京都理学療法士協会、東京都作業療法士会、
東京都言語聴覚士会

プログラム：8月6日（基礎編）① 高次脳機能障害の基礎、② 神経心理検査解釈の要点、③ 就労支援か

らみたADL、IADLの要点、④ 応用行動分析学を用いた運動療法、⑤ 地域生活支援センターの取組、⑥ 認知行動療法の応用による高次脳機能障害。

8月7日（応用編）① 高次脳機能障害の理解のための脳機能解剖、② 社会的行動障害への対応、③ 事例検討

対 象：医療、行政、福祉に携わる全専門職、患者、家族
募集定員：300人

参加費：入会者：1日6,000円、両日10,000円、非入会者：1日7,000円、両日12,000円

申し込み方法：東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座のホームページをご覧ください。

問い合わせ先：東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座（代表Tel：03-3433-1111）